

《共同研究スタートアップ研究成果報告 概要・要旨》

＜課題名＞

十全大補湯の疲労感改善効果と NK 細胞機能増強効果の検証

＜代表者所属・氏名＞

附属病院 漢方医学科 小川恵子

＜共同研究者所属・氏名＞

金沢大学医薬保健研究域保健学系検査科学専攻・森下英理子

福井大学医学部附属病院耳鼻咽喉科頭頸部外科・呉明美

＜研究成果要旨＞

疲労は身体的あるいは精神的負荷を連続して与えられたときにみられる、一時的な身体的あるいは精神的パフォーマンスの低下現象である。慢性疲労症候群では NK 細胞活性が低下することが知られており、健康人の全身倦怠感と NK 細胞機能にも相関がある事が報告されている。申請者が担当する漢方外来では、原因不明の疲労感を訴えて受診する患者が多く、疲労が比較的軽度のうちに症状を改善することにより、ADL や QOL の改善が可能となることを多く経験している。そこで今回、疲労感を訴える患者を対象とし、その様な患者に対して代表的な漢方方剤である十全大補湯を投与し、疲労改善効果および NK 細胞機能増強効果を検証し、十全大補湯の疲労改善効果が免疫系にどのように影響しているのかを探索する試験を計画した。

十全大補湯は補剤（体力を補うことを目的とした漢方方剤の総称）として経験的に用いられてきた。体力虚弱なものの、病後・術後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振、ねあせ、手足の冷え、貧血に効果があり、「気血、陰陽、表裏、内外ともに虚したるを大いに補うもの」で、十全の効ありとの意味にて十全大補湯と名づけられた。また、器質的損傷を修復する機能として、十全大補湯が小児の肛門周囲膿瘍を改善するという報告や、乳幼児の反復性中耳炎に有効であるという報告がある。その作用機序として、我々は NK 細胞機能を高めることがその一部ではないかと考えた。十全大補湯が NK 活性を含む免疫反応を高めることは、*in vitro* や動物実験では以前から報告されているが、人が十全大補湯を服用した場合も同じ効果がみられるかどうかは検討されていない。十全大補湯は経験的に疲労回復や免疫能向上に有効であると言われているが、今までにそれを示した研究は少ない。そこで我々は十全大補湯の疲労感に対する有効性を検証するため、疲労感を主訴とし、漢方専門医の診断で十全大補湯内服が適当と診断された患者 10 症例に十全大補湯を投与し、内服前後の NK 細胞機能と、疲労感の NRS (Numerical Rating Scale) と PS (performance status) を調べた。十全大補湯服用によって全例でスコア上疲労改善効果が認められた。NK 細胞活性の相関については、4 例で、内服によって機能が活性化されている傾向があった。残り 6 例は現在測定中である。また、試験中にがんを発症したり、感冒により服薬を中止した脱落症例が 2 例あったため、新たに募集する予定である。